

受動喫煙症とICD-11

洲本市健康福祉部サービス事業所参事・洲本市応急診療所所長

山岡雅顕

「受動喫煙症」は、受動喫煙による健康被害について、日本禁煙学会と禁煙推進医師歯科医師連盟の診断基準委員会が2005年に診断基準を策定したもので、診断書を発行するなどして受動喫煙被害をなくすことを目指している¹⁾。

一方、死因や疾病の国際的な統計基準である最新の国際疾病分類第11版(ICD-11)が、2019年5月の世界保健機関(WHO)総会で採択された。2022年2月14日に発効してオンライン公開され、現在7か国語で利用可能となっている²⁾。

ICD-11は、旧ICD-10に比べて、コード数が約14,000から約18,000に増えて12万以上の用語が加えられたほか、完全にデジタル化され、また伝統医学、性的健康、ゲーム障害に関する新しい章が追加されるなど大幅な改訂がなされている。喫煙に関しては、旧ICD-10ではF172ニコチン依存症、T652急性ニコチン中毒、程度しかコード化がされていなかったが、ICD-11においては下記に示すように大きく充実し、特に受動喫煙が明確にコード化されたのはICDでは初めてである。このうち、受動喫煙症は「QD70.5タバコの煙への曝露に関連する問題」(Problems associated with exposure to tobacco smoke)に相当すると思われる。

現在、厚生労働省でICD-11の和訳作業が進められており、日本医学会および日本歯科医学会を通じて最終調整が行われている最中である³⁾。

WHOの方針ではICD-11の発効から少なくとも5年間の移行期間を設けるとのことで各加盟国においてICD-11の適用の準備が現在進められており、日本でカルテ病名に「受動喫煙症」がICDコードとして登場するのももうすぐである。

ICD-11のタバコ関連コード(抜粋)

※正式な厚生省の日本語訳版とは異なる可能性があります

- 6C4A ニコチン使用による障害
 - 6C4A.0 ニコチンの有害な使用のエピソード
 - 6C4A.1 ニコチンの有害な使用パターン
 - 6C4A.2 ニコチン依存症
 - 6C4A.20 ニコチン依存症、現在の使用(過去1か月以内)
 - 6C4A.21 ニコチン依存症、早期完全寛解(禁煙12か月未満)
 - 6C4A.22 ニコチン依存症、持続的部分寛解/持続的な完全寛解(禁煙12か月以上)
 - 6C41.2Z ニコチン依存症、不特定
 - 6C4A.3 ニコチン中毒
 - 6C4A.4 ニコチン離脱
 - 6C4A.Y ニコチンの使用によるその他の特定の障害
 - 6C4A.Z ニコチンの使用による不特定な障害
- 9D46 タバコ弱視(両眼機能の障害)
- DA01.0Y 無煙タバコ角化症(口腔上皮の他の特定の障害)
- DA08.4 歯のタバコ沈着物(歯の沈着物)
- KA06.1 母親のタバコ使用の影響を受ける胎児または新生児
- KD37 周産期におけるタバコの煙への暴露
- QB95.8 タバコのリハビリテーション ※紹介に使うコード
- QC4Y 喫煙歴(その他の特定保健障害の経歴)
- QC65 家族の喫煙歴(精神障害または行動障害の家族歴)
- QD70.5 タバコの煙への曝露に関連する問題
- QD84.Y 職場での受動喫煙(リスク要因に対するその他の特定の職業ばく露)
- QE12 危険なニコチンの使用(タバコ以外を含む)
- QE13 タバコの使用(ニコチン依存症以外)

参考文献

- 1) 一般社団法人日本禁煙学会 受動喫煙症診断基準
http://www.jstc.or.jp/modules/diagnosis/index.php?content_id=2 (閲覧日: 2023年10月1日)
- 2) ICD-11 International Classification of Diseases 11th Revision. The global standard for diagnostic health information
<https://icd.who.int/en> (閲覧日: 2023年10月1日)
- 3) ICD-11 の用語の和訳作業に関する報告について 第26回疾病、傷害及び死因分類専門委員会. 資料4 ICD-11 の用語の和訳作業に関する報告について (令和5年9月26日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10701000/001149283.pdf> (閲覧日: 2023年10月1日)